

研究・調査報告書

報告書番号	担当
340	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名	
Alcohol-folate interactions in the risk of oral cancer in women: a prospective cohort study. 女性の口腔内癌リスクにおけるアルコールと葉酸との交互作用：前向きコホート研究	
執筆者	
Shanmugham JR, Zavras AI, Rosner BA, Giovannucci EL.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2010 Oct;19(10):2516-24.	
キーワード	
口腔内癌、アルコール、葉酸、交互作用	
要 旨	
<p>目的： 本コホート研究の目的は、葉酸摂取量による階層ごとにアルコールが口腔内癌リスクに及ぼす影響を定量化することである。</p> <p>方法： Nurses' Health Study の 87,621 人の女性からなるコホートを 1980 年から 2006 年にかけて追跡した。そのうち 147 例の口腔内癌発症が報告されかつ診断を確認した。アルコール摂取と食事のデータは 4 年ごとに自記式の食物摂取頻度調査票（FFQ）から得た。調整リスク比（RR）および 95%信頼区間は Cox の比例ハザードモデルより推定した。</p> <p>結果： 非飲酒者を基準にした場合、一日当たりアルコール摂取量が 0.1-14.9 g/d、15-29.9 g/d、≥ 30 g/d.の者の調整 RR はそれぞれ 0.59 (0.39-0.87)、1.15 (0.67-1.97)、1.92 (1.08-3.40)であった。アルコール摂取と葉酸との間に有意な（$P = 0.02$）交互作用を認めた。すなわち非飲酒者でかつ低葉酸摂取量（$< 350 \mu\text{g/d}$）のものに比べて、多飲酒（≥ 30 g/日）でかつ低葉酸摂取量の者の癌リスクは有意に上昇していた(RR, 3.36; 95% CI, 1.57-7.20)。一方、非飲酒者で高葉酸摂取量（$\geq 350 \mu\text{g/d}$）のものに比べると、多飲酒者でかつ高葉酸摂取量の者のリスクは 0.98 (0.35-2.70)と低下していた。</p> <p>結論： 女性において多飲酒は口腔内癌リスク上昇と有意に関連しており、特に葉酸摂取量の低い群でその傾向が顕著であった。本研究で見られたアルコールと葉酸摂取との交互作用は公衆衛生学的に有用な知見である可能性がある。</p>	